

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 満願寺楼門

古い文化財が数多くある東汗の満願寺ですが、入口に佇む楼門もその一つです。江戸時代の早い時期に建てられたこの建物は、本町最古の木造建築物の一つです。

この楼門は、807（大同2）年の建築との言い伝えもありますが、実際は古い特徴を残した和様の建築です。内部の梁などの部材の特徴は、室町時代の特徴があります。下層の桁行は6.22mで梁間は3.71mの三間一戸の型式ですが、扉の痕跡はありません。現在満願寺には、この楼門のほか、享保元（1716）年に作られたといわれる薬師堂があります。柔和なつくりの薬師堂に比べて、豪壮なつくりの楼門ということで対比されています。

全体的にバランスの良いつくりで、昭和30年代以前は茅葺でしたが、その後瓦葺に改

められたものの、茅に比べて重さが増えてしまったことから、建物のあちこちに歪みが目立ち始め、倒壊の危険性が指摘されるようになりました。このことから平成15年から2カ年に渡り修復事業を行い、茅葺の雰囲気を出した銅板葺に改められ、さらに、長い年月が経過したことにより腐食した部材を修繕することによって、往年の姿に戻りました。

さて、この楼門について説明する場合忘れてはならないのは、楼門の東西に分かれて鎮座する、2体の仁王像です。この仁王像は天衣をまとっていないことから、それを題材にした民話が伝えられています。それは次のようなものです。宇都宮明神の仁王様は鹿島明神にある神池を盗みに行きましたが、途中力持ちで有名な、満願寺の仁王様に加

勢を頼み、鹿島に向かいまして。そして、鹿島神宮にやってきて池を持ち出そうとしたところ、こちらも力自慢で有名な鹿島神宮の仁王様に見つかり、宇都宮明神の仁王様はつかまってしまい、満願寺の仁王様は、命からがら追いつがる鹿島神宮の仁王様を振り切つて逃げ帰りました。しかし、その時に鹿島の仁王様につかまれてしまった天衣を、取り返すことができず、その時以来、今に至るまで満願寺の仁王様の肩の上には天衣が無いままになっているのです。



満願寺楼門

安土・桃山時代					室町時代					鎌倉時代					西暦																																																																																				
1750	1745	1741	1731	1727	1724	1722	1720	1718	1712	1709	1698	1688	1685	1682	1680	1668	1663																																																																																		
寛延3	延享2	寛保元	享保16	享保12	享保9	享保7	享保5	享保3	正徳2	宝永6	元禄11	元禄元	貞享2	天和2	延宝8	寛文8	寛文3																																																																																		
徳川家光の100回忌にあたり、日光道中において大規模な通行がある。					徳川吉宗が將軍を辞職し、家重が將軍に就任する。					大山村領主旗本小出頼負の領民11名が、江戸赤坂御門の小出家屋敷にて検見の不正を訴え出る。					幕府、加賀藩から15万両借り入れする。					壬生宿にて、旧多功城主子孫、伊予今治藩士多功孫左衛門と旧家臣が面会する。					近松門左衛門亡くなる。					川中子村にて洪水で村が困窮していることから、助郷役休役の訴願が出される。					江戸に町火消ができる。					幕府、庚申塔や新たな堂・宮の建立を禁止する。					※このころ、満願寺の楼門が建てられる。					鳥居忠英が近江水口城から壬生城に移封される。（下野における千瓢伝来）					徳川綱吉没、生類憐みの令が廃止される。					築村が税の引き下げを願い出る。					柳沢吉保、側用人になる。					多功村において、名主の不正をめぐって、惣百姓が罷免要求を起こす。					江戸にて八百屋お七の火事が起きる。					万石通しが発明される。					足利学校再建される。					4代將軍家綱、日光社参。					できごと				

巡回バス最寄りバス停
 本郷線（ピンクのバス）
 東汗公民館下車、徒歩1分
 ▼問い合わせ先＝
 生涯学習課 生涯学習係
 ☎9159